

## 御神楽岳 湯沢 高頭スラブ

笹川

【日時】 2011年6月10日(金)

【メンバー】 小暮、笹川

朝起きると小暮が「沢靴忘れた」と言う。夢か、起きなきゃと思うが、既に立っていた。津川ICを出るとすぐにコメリを発見。運良く沢靴を購入できた。

今日はBCから近い高頭スラブとしていたので、出遅れたが予定通り行く事とした。

BCを出ると30分程で雪渓が出てくる。小暮は前回栗原さんと来た時に藪っぽいルートとなったので今回はスッキリしたスラブ登攀をしたいと言うが、どう見



トラバースして登山道へ



藪の中のスラブ登りが続く

回しても藪っぽいのですが。。。「こんなにボサボサしてるの」と聞くと「そうなんだよ」との答え。実は3日目の本谷スラブに行った時に、本谷と思った所が、どう見ても沢が小さく、初日に登ったルートが間違いだと気付く。久々の山行で勘が鈍ってました。

なるべく岩登りが続くルートを通ろうとするが難しくなり、灌木のトラバースというパターンが続く。

途中、2回ロープを出し尾根に出ると更に前方にスラブが見える。時間も早いし、やはり間違えた事に気付く。登山道のテープが見えたので、そこを目標にトラバースする。

前週の会山行に行けなかったので、山菜を堪能しようと楽しみにしていたが、山菜はあまりなく、餌を忘れたので釣果もなく、残り2日の食事が不安な夕餉となった。

【行程】

6/10 登山口 (10:15) ~ 湯沢出合  
BC(11:20/40) ~ 雪渓(12:05) ~ 稜線  
(15:05/15) ~ BC(16:20)

【地図】 御神楽岳

## 御神楽岳 広谷川覚道沢

小暮

【日時】 2011年6月11日(土)

【メンバー】 小暮、笹川

二日目は、覚道沢を予定していたが天気予報では、午前中は雨の予報なので、のんびりと焚き火の傍で朝食をとり、今日は本流で釣りや山菜採りかなあと相談していた。朝食を済ませてのんびりしていると、単独で湯沢に向かうクライマーが現れた。彼は、高頭スラブに向かうとのことで、雪溪の状況を我々に確認し、特に問題ないことが分かると喜んで進んで行った。今のところ天気も大丈夫だし、先ほどのクライマーのやる気に当てられて我々も、予定通り覚道沢に行ってみようかという気になった。

湯沢出合のベースキャンプより10分ほど登山道に戻ったところが、覚道沢の出合である。出合の5m滝を左側より直登すると、すぐに雪溪が出てきた。ブリッジになっているが、くぐる気にはならないので、右側から灌木を掴んで雪溪に乗り、巻き気味に抜ける。続く滝を越えると、大きな雪溪が再び現れる。やはり雪溪の上に乗る、歩いているうちに雨が降ってきてしまい、こんな雨の中で雪溪処理をするなら、釣りでもしてれば良かったかなあと感じてしまう。雪溪から沢に戻るのが、微妙だなと思っていると、案の定滝が掛かっていた。何とか左の藪に雪が繋がっていて、灌木伝いに降りることができた。

もうひとつ雪溪を越えると、正面はトイ状15m滝。滝の直登は厳しそう。左岸のルンゼ脇の岩のバンド状からトラバース出来そうだと観察するが、手がかりが無く厳しそう。ルートを探していると、一段上がったところに、ボルトを発見。ここをランニングにしてロープを出して登ることにする。この手の嫌らしい登攀は、シーズン初めて慣れておらず、少々緊張した。トイ状の滝の正面は涸沢となり、沢は左から5m滝が掛かっているの、まとめて越えてその上の灌木でビレイ解除。

小難しい登攀をしているうちに、いつの間にか雨は上がったようだ。続いてスラブ状の立った滝が現れる。ここも左側からロープを出してルートを探るが、直登は厳しいので、左の急な藪斜面に逃げる。1ピッチ登って、そのまま高巻きに入る。急なルンゼを渡り、灌木を腕力頼みで掴んでトラバースして滝上に戻った。



虹ノ滝 40m (右) へ取り付く

雨あがりで、泥がずるずる滑って悪い巻きだった。古野さんの古い記録では、右から巻いているが、右は崖になっていてこちらは大変そうに見えた。

この上で、沢は穏やかになり、しばらく樹林帯の中を進むと、再び長い雪渓歩きとなる。雪の上は、ゴーロよりも却って歩きやすい。正面は、岩峰と岩峰の間に二俣となった滝が掛かる。正面は40m滝、左は岩峰を挟んで60mの滝となっている見事な景観である。これが虹ノ滝と言うようだ。雪渓から仰ぎ見る滝は立派で、一見の価値あり。

虹ノ滝の傾斜はさほどでもなく、水流の左側を登れそうだ。雪渓から岩に移って一段上がったところで、ロープを出す。難しくなく快適なクライミングだ。

ここから先は水量も少なくなり、源頭の様相だ。小滝やトイ状の滝が出てくるので、滝を直登したり、ツルツルの水流の脇に生える灌木を掴んで登っていく。最後の藪を漕ぐと、稜線に出た。稜線から登山道までも、藪、藪、藪。

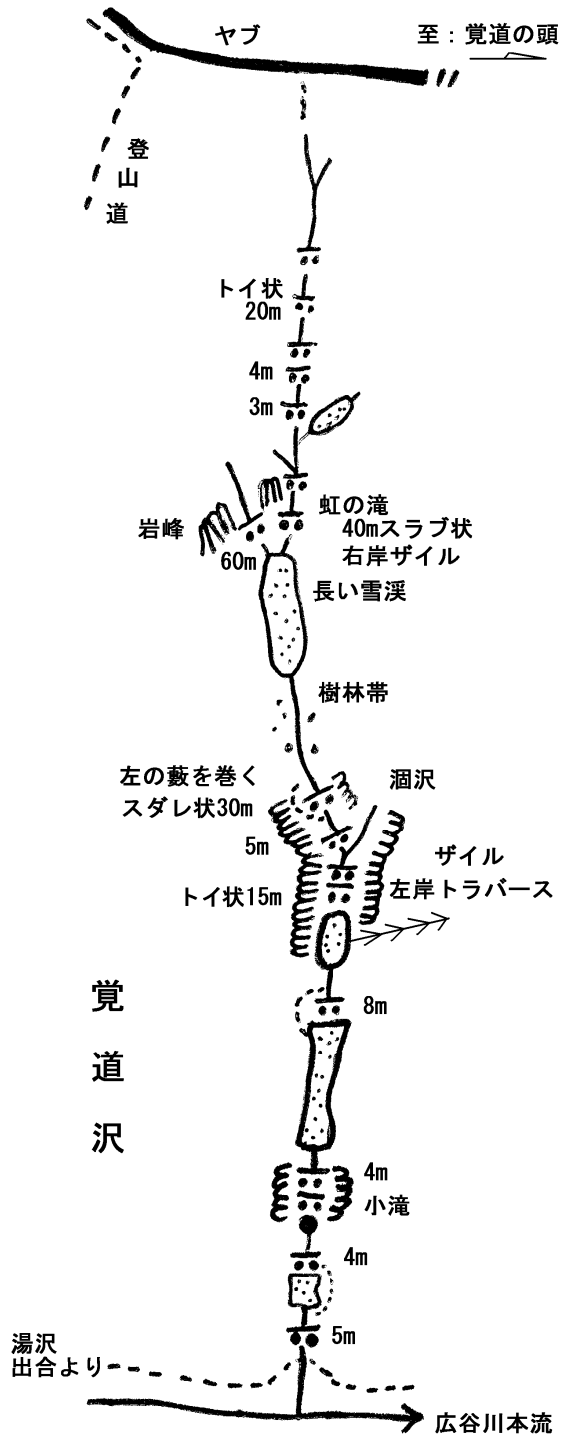
天気も陽が出てくるまでに回復し、暑くて仕方ない。ようやく栄太郎新道に出たが、ここからも足元が良くない登山道なので、もう一苦労だ。昨日に引き続き、湯沢のスラブ帯の各ルートを眺めつつ、慎重にベースキャンプへと下山した。

**【行程】**

6/11 湯沢出合 BC(7:45)～覚道沢出合(7:55)～稜線(13:20)～登山道(13:50/14:00)～BC(15:50)

**【地図】** 御神楽岳

**【グレード】** 3級



やっぱりスラブはルートファインディングが難しい

## 御神楽岳 湯沢 本谷スラブ

小暮

【日時】 2011年6月12日(日)

【メンバー】 小暮、笹川

日帰り3本の3日目は、湯沢の本谷スラブである。BCから30分ほど沢を登り、雪渓に乗る。左右に岩場を眺めながら、スプーンカットの雪渓を歩く。左から入る谷が本谷かと思い、よく観察すると、ここは珊瑚クラックであった。初日に登ったところは、高頭スラブにしては藪っぽすぎると思ったが、やはり間違えて手前の藪スラブを登ってしまったことが判明。傾斜の強い右俣に入ると、本当の高頭スラブが大きく合わさっている。このスラブ帯を見送り、

更に雪渓を登る。正面は、滝がかかる正面スラブである。本谷スラブは更に左側に雪渓が続いている。途中で雪渓が崩壊していないか心配していたが、先を見ればやはり一部切れている。大きなクレバス状にパッキリと口を開け、覗き込むと10m以上の滝が中に見える。ここは、右側の灌木帯に乗り移り、5mの懸垂で割れ目を越えて先の雪渓に移ることが出来た。その上の雪渓も、切れそうな細いブリッジになっている。ここは、転落と雪渓の崩壊が心



配なので、スタンディングアックスビレイをして、慎重に抜けた。最後の雪渓から沢に移るところは、トイ状の滝となっているので、急斜面の硬い雪から、左岸のスラブへ乗り移る。

これでようやく雪渓から沢に移ることが出来た。足回りをクライミングシューズに履き替えれば、岩登りにも余裕が出てくる。それでも沢の中はツルツルの滝で直登が厳しく、そのま

ま左岸のスラブを登る。再び雪渓が幾つか出てくるので、そのまま巻き気味に登る。

正面には二俣の滝となり、岩峰が門のようにになっている。右の滝が、ダイレクトスラブのようだ。左の本流の滝の直登は難しそうなので、ロープをつけてダイレクトスラブ側の滝を登り、小尾根を乗っ越して本流へ戻る。



この先、本谷スラブは一番左なので、左へ左へと意識して上っていくと、関門ノ滝を思われる岩峰の間の滝へ続いている。今回もここで失敗し、間違えて一本左の枝沢を詰めてしまった。関門ノ滝と間違えて逆相気味の15m滝をロープを出して越え、更に岩小屋状の涸滝を左から高巻いて越える。すでに沢はスラブではなく、草付の源頭となりクライミングシューズが滑る。ここからアクアステルスソールの沢靴とスパイク足袋に履き替えて僅かに登れば山伏尾根に出た。思ったよりも下の方に出了ことに気づいたが後の祭り。本谷スラブ脇の枝沢を詰めてしまったようだ。

山伏尾根は、岩が多く、なんとなく踏み跡のような感じで藪もきつくない。岩峰が出てきて、直登が厳しいので沢の方からトラバースするところが少々厳しい。湯沢の頭に出たのは、13時40分であった。結構遅くなってしまった。ここからの下山は、3日分の疲れが出たのか、笹川の膝が痛み出してスローペースとなる。栄太郎新道もう少し整備してもらえると楽なのだが。疲れてベースキャンプに戻り、テントを収容して下山する。実に11時間行動であった。

今回も詰めを間違えてしまい快適なスラブ登りとは言えなかったが、スラブ帯に着くまでの雪渓処理の大変さを考えると、再訪するのはしばらく先になりそうだ。

【行程】 6/12 湯沢出合BC(7:05)～雪渓(7:30/35)～ダイレクトスラブ出合(9:30)～山伏尾根(12:20)～湯沢の頭(13:40/50)～高頭(14:35)～BC(16:45/17:05)～登山口(18:10)

【地図】 御神楽岳

